



光風会 江田 五六 議員

これからの東海村、
そして地域のありよう

議員 東海村の将来像について伺う。今回の震災によるさまざまな教訓を得た原子力発祥の地・東海村は、今後、

考える“村民による懇談会”を、村長の下に設置していただきたいと思う。

持続可能な村として地域経済、雇用、地域社会（福祉）のありようについて再検討し、新たな発想により再構築を図ることが大変重要なことである。その具体例として、私は次の2点を考えている。

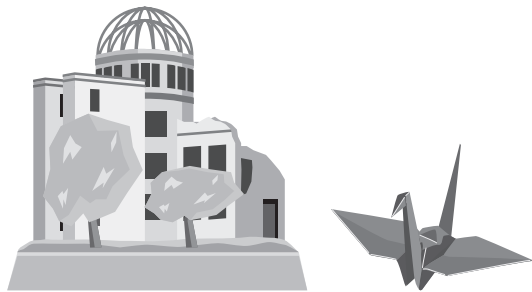
村長 東海村の将来のために懇談会を立ち上げることは良いことであると思う。

中学生の修学旅行

議員 平和教育を推進するために、中学生の修学旅行は、広島方面も含めての実施をするべきと思うが、どのように考えるか伺う。

まず、福島原発事故のバックエンド事業への取り組み、2つ目として、村内に現存する放射性廃棄物の早期解決を図る等々。このような村の将来について

教育長 茨城県内では、広島方面への修学旅行をしている学校はありません。しかし、平和教育は必要だと思っている。JR、宿



泊先の調整のため、現在の中学1年生までは、修学旅行先が既に決まっている。今後は、関係者と十分検討し、平成26年度以降は、広島方面への修学旅行の実現について、前向きに検討していく。

地域福祉エリア構想

議員 今後の超高齢化社会に向けて、高齢者が生涯現役を送ることは、当人にとっても、

”税と福祉“の問題においても大変重要であり、必要なことである。そのために、村内各地

区の特徴を活かした地域単位の『地域福祉エリア』という、以下の条件を備えたまちづくりが必要と思うが、どのように考えるか伺う。

- ① ニュースポーツ等、交流の場としての多目的広場がある。
- ② 健康維持のための食文化を学び、実践する環境がある（ふれあい農園）。
- ③ 地域ビジネスを育てる活力センターがある（地産地消、新規就農支援）。

④ 地域の中に、福祉の担い手および対象者が楽しく過ごすことのできる施設がある。

⑤ 地域の特徴を活かした地域林（里山）がある（憩いの場、三世代交流の場、地域林保全条例の制定）。

村長 高齢者福祉の中で、一番大事なことは、家に閉じこもらず、積極的に外に出ることだ

その他の質問事項
・ 生きる力を育む教育
・ 盛り土造成宅地の被害救済
・ 福島県民および大震災被災者への支援対策
・ 震災後の原子力センター構想の基本理念



私がイメージする地域福祉エリア